

2026年



2月

草の根

BULLETIN OF THE AICHI COUNCIL AGAINST A&H BOMBS

発行 原水爆禁止愛知県協議会
発行人 佐竹康行
〒461-0004
名古屋市中区葵1-22-26
Tel(052)932-3219
Fax(052)931-2651
gensuikyo@lime.ocn.ne.jp
毎月1回 6日発行
月40円/年間480円

高市政権の暴走止めるため 草の根からの対話を 反核・平和新春のつどい

1月11日、民主会館にて「反核平和新春のつどい」が開催され80人が参加しました。

小島愛知県平和委員会理事長の開会あいさつの後、愛友会副理事長の丹羽洋子さんから新年のあいさつがあり、「昨年9月27日の『あいち平和のつどい』の成功は大きな成果だった。被爆者は高齢化し、愛友会だけでは動けない。これからもみなさんと一緒に運動を進めていきたい」と話し、また昨年11月に禁止条約参加を求める署名の提出



と国会前行動に参加して、「みんなの声を届けた時、これからは語り部として姉たちの思いを届けていく」と決意した」と反核平和への思いを語ってくれました。



攻や衆議院の解散総選挙が報じられたことに対し、「何が起きるかかわからない。まさに混沌としている」と話しました。

核兵器をめぐる世界の状況については、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ攻撃の暴挙によって、核兵器が戦争の「抑止」どころか、核兵器を振りかざすことで侵略ができることを証明してしまつたと語り、日本でも安倍政治を引き継ぐ高市政権のもと敵基地攻撃能力強化が進められていること、非核3原則の見直しや官邸幹部の核保有発言に触れ、「日本が核兵器を保有することになると、NPTからの脱退、各国の反発など世界から分断され孤立する」と警鐘を鳴らし、「もし、日本側の要請でアメリカの核が使用されることになれば、その標的は沖繩になる」と語りました。

富田さんは最後に欧州での極右との闘いを例に挙げ、「今、対話することが大事。同じ意見の人と話すのではなく、反対の意見を持った人と話す。相手の話をよく聞き、一致点を探すこと。すぐには変わらないが、もう一度考えてもらうことが大切」と語りました。

日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名
県内168,968筆
2026年1月10日 現在

第二部では、乾杯の後文化企画として、宇野進二さんと三線教室の生徒さんによる三線の演奏



と沖縄民謡が披露されました。



活動交流では、昨年に全国通行進者として平和行進を歩いた三浦コト子さんが「通行行進の中で各地の人と平和を語りながら歩いた。今年も平和行進がんばりましょう」と話し、被爆2世の丹波さんは、昨年11月に愛友会2世部会が企画した広島の旅の報告とともに、「親から被爆体験を聞いていない人が多い。語り

継いで行くことが使命だと思っている」と決意を語りました。

また、瀬戸市の太田さんからは、愛友会支部を再建したことや聖霊高校の生徒11名が広島の世界

今年も元旦から 熱田神宮前で署名宣伝行動



また、同じ場所所新年のあいさつをしていた大村秀章愛知県知事から「平和こそ日本の国是」と激励のあいさつがありました。

1月1日、毎年恒例の元旦署名・宣伝行動を熱田神宮東側で行いました。平和委員会、新婦人、労働組合、愛知県AALA、愛友会、原水協などから25名が参加し、署名は66筆集まりました。

◆訂正とお詫び
草の根2026年新年号で代表理事名、愛知県民主医療機関連合会の広告の電話番号に誤りがありました。訂正し、お詫び申し上げます。
◆代表理事名
誤・堀 直予
(愛高教委員長)
正・寺田英明
(愛高教副委員長)
◆愛知県民主医療機関連合会電話番号
誤・052・839・2880
正・052・883・6997

被爆者の体験と核兵器廃絶の思いをつないでいく 被爆者を励ますつどい



昨年12月20日、被爆者を励ますつどいが保険医協会伏見会議室で行われました。被爆者7名、2世4名と支援者合わせて40名が参加しました。はじめに、日本反核法

用に対しての裁判は『原爆裁判』のみ。今後、核兵器使用が裁判という形で争われることはないだろう。核兵器が使用されることがあれば、文明が減びているだろうから」と語りました。その後、3つのグループに分かれ、お弁当を食べながら被爆者との懇談交流を行いました。被爆者の丹羽さんは、「両親は原爆の話をしなかった私も『聞いてはいけない』



滝本さんは、2才の時に広島で被爆し、小学6年生の時にABCに連れていかれた事を話してくれました。中学2年間で年に1回ABCに行き、そこでは裸になり写真を撮られたこと、同級生の女の子は終わった後、もう来たくないと言っていたことを覚えていると語ってくれました。

浜岡原発再稼働せず、廃炉にせよ 原発なくす愛知の会が申し入れ



文化企画では、大道芸人のえーちゃんやジャグリングや折り鶴のバルーンアートを披露し、会場を沸かせました。最後に被爆者のみなさんにプレゼントを渡し、集いは終わりました。



浜岡原発（静岡県御前崎市）の再稼働をめぐる、中部電力が安全審査の前提である基準地震動データを捏造してきたことが明らかにしたことや、工事費不払いを巡って1月19日、「原発なくす愛知の会」として中部電力本店を訪れ、浜岡原

発の廃炉と原子力事業からの撤退を申し入れました。申し入れでは、中電の不正行為は原子力事業者の責務に反するものだと指摘し、再稼働審査の申請取り下げと廃炉、再生可能エネルギーへの転換を求めました。話し合いの最初に、中電の総務から、この間の事態に対し、「お詫び」から始まり

主導してきた可能性が高いと認め、「再稼働を口にする段階ではない。今回の事案は経営の死活問題」と述べました。日本共産党から、もとむら伸子衆院議員、すやま初美東海比例候補、奥野寿夫静岡岡菊川市議が同席しました。もとむら氏は、中電の勝野哲夫会長は政府のGX実行会議で原発最大限活用を求めた提案を繰り返している

核兵器禁止条約5周年行動 非核の政策へ転換を求めて



国の原子力政策を最大限活用して誘導してきたと指摘。「その中電がデータを捏造。12月にも原発活用を提案しており、無責任だ」とたたきました。すやま氏は「捏造は安全審査を覆すもの。中電に再稼働する資格があるのか」と訴えました。今後話し合いの場を、申し入れ後、1週間ないしは2週間後に対応できるように要請しました。

核兵器禁止条約の発効から5年の1月22日、愛知県内の市民・団体などでつくる「日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める愛知市民の会」は、名古屋市中区のスカイルビル前で行動を行いました。参加は、愛労連、愛高教、JMITU、千種名東労連、県平和委員会、反核医師の会、北医療生

協、県原水協の皆さん、12人でした。とても寒い中でしたが10人の方から、「非核三原則を守り、実行を求め署名」が寄せられました。呼びかけ人の一人、松田正久元愛知教育大学学長は、「核兵器を一発でも使えば、人類は破滅です」と訴え、歴代内閣が国是としてきた「非核三原則」を高市政権が見直そうとする動きを批判。 「核兵器禁止条約に署名



2026年3・1ピキニデー学習パンフレット 全国的行動の出発点は3・1ピキニデーです。4月にはNPT再検討会議、8月の原水爆禁止世界大会、11月に禁止条約の第1回再検討会議とつづきます。世界では核兵器の廃絶と平和のための国際連帯を、日本では戦争する国づくりへの暴走を止め、非核平和のアジア、被爆国日本として核兵器廃絶の先頭に立つ日本へ変えましょう！このパンフレットを活用し、「核抑止力」論を打ち破り、「非核日本キャンペーンII」をさらにひろめましょう。 ●B5版(16ページ)4色刷・頒価220円(送料実費) ※問い合わせは県原水協事務局まで

する政府に代え、平和な日本をつくらう」と訴えました。大村義則愛友会副理事長は、「総選挙は、非核三原則を変えようとしていく政権に審判を下すときだ。核兵器の廃絶と非核の政策に転換していこう」と呼びかけました。 「(核兵器を)持ったらダメに決まってるぞー」(大阪の人)と話す人など、署名への反応はまずまず。署名を持つて対話をする必要(総選挙にとつて)があることがわかる行動になりました。